

【2020 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/基礎医学系】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
運動学実習 (作業療法学科中心)		必修 (作) 選択 (福)	1	2	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
海保 享代	C317	kaiho	月 13:00~14:00		
授業の目的・概要	運動学 I・II で学んだ知識を用いて、実際に関節や筋、動きを観察・測定し、運動を的確に判断できるようになることを目的とする。遠隔授業にて提示された課題について、グループでの意見交換、遠隔授業内にて発表を行う。4~5 名程度のグループに分かれ配布された実習結果について分析し、遠隔での発表授業の準備・レポート作成を行う。発表後の遠隔授業にてオンラインでの小テストを行い、知識の確認を行う。筋・骨の触診は対面授業にて実施し、実技試験を実施する。				
学習上の助言	この授業では運動学で学んだ知識が必要となるので、授業の教科書を復習しておくことが望ましい。ペアやグループでの確認や話し合い、発表することによって理解度は大きく向上する。実技は反復練習が重要である。				
教科書	15 レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト 運動学実習 編：石川朗他 出版社：中山書店				
参考書	筋骨格系のキネジオロジー 第3版 著：Donald A. Neumann 出版社：医歯薬出版 機能解剖学的触診技術 上肢 改訂第2版 監：青木隆明 出版社：メジカルビュー 機能解剖学的触診技術 下肢・体幹 改訂第2版 監：青木隆明 出版社：メジカルビュー 基礎運動学 第6版補訂 著：中村隆一他 出版社：医歯薬出版				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	筋や骨の触診をして実際に部位や収縮を確認できる。			OT (2)	
②	実習結果を運動学的に分析し、身体運動・動作の特徴や仕組みを理解する。			OT (2)	
③	課題を通じて運動学的計測手法について理解する。			OT (2)	
④	分析結果をまとめ、発表することができる。			OT (2)	
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1・2	オリエンテーション、レポートの記載方法・発表説明 課題①の提示：実習結果をもとに関節運動 (上肢・下肢・体幹) について理解する	同時双方向型 授業	上肢・下肢・体幹の機能的解剖・動きについて確認する。(教科書 11~22、35~49、67~76 ページ)	2	
3・4	課題①の討論	同時双方向型 授業、GW、討論	実習の成果をまとめ、考察しレポート・発表用のスライド資料を作成する。	1	
5・6	課題①の発表	同時双方向型 授業、発表	各グループで発表準備を行う。	4	
7	課題①の小テスト 課題②の提示：実習結果をもとに姿勢分析・重心・立ち直り反応について理解する	同時双方向型 授業、小テスト	課題①の発表内容を確認する。姿勢・重心・バランス反応について確認する。(教科書 97~116)	2	
8・9	課題②の討論	同時双方向型 授業、GW、討論	実習の成果をまとめ、考察しレポート・発表用のスライド資料を作成する。	1	
10・11	課題②の発表	同時双方向型 授業、発表	各グループで発表準備を行う。	4	
12	課題②の小テスト 課題③の提示：実習結果をもとに立ち上がり・歩行動作の分析を行い理解する	同時双方向型 授業、小テスト	課題②の発表内容を確認する。立ち上がり・歩行についての動作について復習する。(教科書 87~96、131~152 ページ)	2	
13・14	課題③の討論	同時双方向型 授業、GW、討論	実習の成果をまとめ、考察しレポート・発表用のスライド資料を作成する。	1	
15	課題③の発表	同時双方向型 授業、発表	各グループで発表準備を行う。	4	
16	課題③の小テスト 課題④の提示：実習結果をもとに CPX・筋力の分析を行い理解する。	同時双方向型 授業	課題③の発表内容を確認する。関節トルク、運動時の生理的反応について確認する。(教科書 49~52、77~86、153~165)	2	

【2020 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/基礎医学系】

17	課題⑤の提示：触診について理解する	同時双方向型 授業、小テスト		1					
18・19	骨・筋の触診（上肢・下肢・体幹）：骨や筋を観察し、実際に触れて確認する。	実習	骨・筋の位置、触診について確認する。(教科書 1～10、23～34 ページ)	1					
20・21	骨・筋の触診（上肢・下肢・体幹）：骨や筋を観察し、実際に触れて確認する。 課題⑤のテスト：骨・筋の触診を実技にて確認する。	実習、小テスト		4					
22	課題④の発表	同時双方向型 授業、発表	各グループで発表準備を行う。	4					
23	課題④の小テスト	同時双方向型 授業、小テスト	課題④の発表内容を確認する。	2					
試									
達成度評価									
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計		
		40	40	20	0	0	100		
総合 力 指 標	知識・技術力	40	10	0	0	0	50		
	思考・推論・創造する力	0	20	5	0	0	25		
	協調性・リーダーシップ	0	0	5	0	0	5		
	発表・表現伝達する力	0	10	10	0	0	20		
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0		
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0		
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0	0		
評価のポイント					フィードバックの方法				
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					フィードバックの方法		
試験	①	✓	触診の実技試験 (20 点)、各実習後に実施する小テストの計 5 回 (20 点) の成績で評価する。					触診の実技試験では終了後すぐに間違いのあったところを指摘する。小テストは次回の授業にて振り返りを行う。	
	②	✓							
	③								
	④								
	⑤								
	⑥								
レポート	①		発表後に課題についてのレポートを提出する (計 4 回)。提出は Teams を使用する。評価項目は考察内容、文量、適切な参考文献の使用、体裁、誤字脱字の有無とする。					提出後に添削し、Teams にて返却を行う。	
	②	✓							
	③	✓							
	④	✓							
	⑤								
	⑥								
成果発表	①		4 回の実習後に事前に指定された課題について発表準備を行い、スライド発表を行う。各グループは 2 つに分かれ、2 ヶ所で同時に発表を行う。評価項目は口頭試問、考察内容、適切な発表、適切な文献の使用、質疑応答の内容とする。					発表後にフィードバックを行う。	
	②	✓							
	③	✓							
	④	✓							
	⑤								
	⑥								
ポートフォリオ	①								
	②								
	③								
	④								
	⑤								
	⑥								
その他	①								
	②								
	③								
	④								
	⑤								
	⑥								

【2020 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/基礎医学系】

備 考

担当教員：◎海保享代、浅野克俊

この科目は 2 時限連続、2 クラス開講の遠隔授業である。
18・19 回、20・21 回は 2 クラス合同での登校授業である。

登校授業では実習着に着替えて参加する。
試験として触診の実技試験、発表毎に小テストがある。

Teams を使った同時双方向型授業を行う。授業時は通信容量が無制限の Wifi 環境を推奨する。
遠隔授業の実施状況によっては今後、再びシラバス改訂の可能性はある。課題ダウンロードや動画視聴などがあるので、通信容量制限がある場合は通信量に十分に注意すること。
小テストは授業内で提示した QR コードをスマートフォンで読み取り実施する。遠隔授業を行う際は手元にスマートフォンやタブレットなど QR コードを読み取る電子媒体を用意しておくこと。

教員の実務経験：作業療法士免許を有したのち 10 年以上の臨床業務経験

実践的授業の内容：臨床での運動学の知識の活用や疾患の説明を加えることにより、実践的な運動学に関する知識と技術の獲得を促す。